

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## 『老人支配国家日本の危

機』 エマニュエル・トッド著 文春新

書 248頁 850円（税別）

本屋さんでパラパラとこの本をめくって自分の知らないこと、思ってもいないことがたくさんあるのを見つけました。頭が固まってしまっただけなのではないかと読んでみることにしました。私にとって目新しいことをご紹介します。皆様にとってはいかがでしょうか？

★黒人差別は米国の原点：米国の民主制はその初めから人種感情と結びついた人種疑義的民主制だった。黒人や先住民の存在が白人間の平等を実現させたのだ。白人の範囲は、徐々に広がった。ユダヤ系のような非キリスト教徒、次にアジア系移民も白人扱いに格上げされた。レイシズムは黒人でも先住民でもない者たち＝白人の社会統合を容易にしてきた。レイシズムはアメリカの基盤なのだ。

★トランプ：トランプは、白人/黒人という二項対立という米国の伝統から外れている。彼の標的はメキシコ人だからだ。彼は、アンチ黒人とは言えない。トランプは下品で馬鹿げた人物であり、著者も人として許容できない。しかし、彼が敷いた路線「保護主義」「孤立主義」「欧州からの離脱」が今後30年の米国の在り方を方向づけることになる。その意味でトランプは歴史的な大統領である。一方バイデン、民主党はアンチトランプでしかない。民主党は選挙の争点を経済から人種問題にすり替えることで勝ったが、これによって社会の分断が深刻化する。経済の問題は、本来妥協が可能な合理的な領域であるが、人種は妥協が困難で、果てしない対立を生みがちな不合理性をともなう領域だからだ。

★中国：中国については、今後、世界の覇権を握り、一種の帝国となるといったことがしばしば言われる。しかし、政治的にも経済的にもそんなことはない。中国の未来は悲観せざるを得ないという点で、人口学者は一致している。少子化と高齢化が急速に進んでいるからだ。さらに、男子118人対女子100人といういびつな男女比、若いエリート層の国外流出などに加え、経済自体も輸出依存の脆弱な構造になっている。砂でできた巨人である。

イデオロギーと軍事面については毅然とした態度を取るべきだ。

歴史問題をしつこく蒸し返されるのであれば、「第二次世界大戦はもう終わったのだ」と言えばいい。南京虐殺を持ち出されたら、死者の数から言えば毛沢東の圧政によるものの方が多いと返せばいい。日本がキツパリと語れば、中国首脳はかえって聞く耳を持つだろう。

日本は中国がこれからの世界の中心となるという幻想に惑わされてはならない。

★核兵器：著者の母国フランスは、核兵器を保有し、抑止論を突き詰めた国だが、抑止理論では、究極、核は純粋に個別的な自己防衛のためにあるということだ。核を使用する場合のリスクは極大であるがゆえに、核を自国防衛以外に使うことはないのだ。中国や北朝鮮が米国本土を核攻撃できる能力があるかぎりは、米国が、自国の核を使って日本を護ることは絶対でない。米国の核の傘はフィクションだ。著者は、日本の核武装を提案したい。

以上簡単にご紹介しました。私はこのような考え方を全く知りませんでした。皆様はいかがだったでしょうか？

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

## ネットでの会議

Zoomなどを使ってネットでの会議をされている方も大勢いらっしゃると思います。ネットでの会議、Web会議については多くのノウハウ本が刊行されています。それは、いろいろな問題を抱えているからです。そこでここではごく簡単に注意点を書き出してみようと思います。

### ★司会者

ウェブ会議において司会者は、通常の会議とは違う働きが求められる。画面越しでは、話しやすい雰囲気づくりや気楽な発言や会話が難しいからだ。

★動き：人の発言をじっと聞く姿勢は、銅像のように固まっている姿に映ってしまい、「パソコンがフリーズしてしまったのかな」「ちゃんと聞こえているだろうか」と他の参加者に心配をかける。そこで必要なのは、司会者が、「リアクションは普段の2倍でお願いします」「共感した人は、拍手してください」「わかった人はOKサインをお願いします」と促すことが必要だ。

★明るさ：最も良くないのは、参加者の画面が暗いことだ。画面の向こうにいる顔も見えない人物が相手では満足に会話ができない。だから照明を明るくしなければならない。部分照明を使って顔を照らす、逆光を避けるなどの注意が必要だ。

★音声：話しが聞こえにくくても、ウェブ会議では相手に確認しにくい。したがって通常の会議よりも大きくはっきりした声で話すようにしなければならない。さらに外付けのマイクを導入するだけで聞きやすさが段違いになる。

ウェブ会議は、時代がくれたチャンスです。ものにしていききたいものです。

## リスキリング

リスキリングのりは、リバイバルのりで、再びという意味です。リスキリングとは、スキルの再取得、学びなおしです。新しい業務で必要となる知識やノウハウを学ぶことを指します。特にDX、つまりデジタル化関係のことを言うこともあるようです。諸環境が大きく変わる昨今では、常に新しい知識やスキルの獲得が必須となります。資格取得もリスキリングのひとつです。

人手不足への対策にもなるでしょう。生産性があがり、3人必要だったことが2人で済むようになる。いままでは企業内の1部社員しかできなかった仕事を他の社員もできるようになるなどの成果が見込めるからです。

中小零細企業では、リスキリングはまず経営者から始めるのがいいでしょう。社員にさせるよりは、まず自分がやって必要性、重要性を認識してもらうわけです。

リスキリングという言葉が使われ始めてすでに4年がたっています。2018年ダボス会議がきっかけと言われています。さらに、2020年1月のダボス会議では、「2030年までに世界で10億人をリスキルする」という宣言がなされました。

世の中は、VUCA: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)です。簡単にいうと、今の世界は変化のスピードが速く、しかもその変化がどこに向かうのかわからず、どんどん複雑化曖昧化しているということです。そんな世界を突っ立って見ているとめまいがしそうです。それよりは思い切って、このVUCAへの対応を積極的に仕事や生活に取り入れて、あかるい未来を築いてゆきましょう。

リスキリング、何から始めますか？